

# 鹿児島大学教育学部 同窓会会報

第6号

平成16年11月11日

発行

鹿児島大学教育学部  
同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-20-6  
電話099-285-7711

## 貴重な人材の活用を

### 第6回同窓会総会開かれる



平成十六年度第六回同窓会役員  
総会が七月二十五日(日)、教育  
学部会議室で開かれた。

開会に当たり、松元兼俊会  
長が同窓会のあり方や今後の  
活動の方向性を示し、続いて  
島田俊秀元学部長、前坂尾隆  
学部長、現中山右尚学部長が  
挨拶に立った。

平成十五年度の会務につ  
いては、増田安和理事が、①在  
学生十六人・卒業生二人によ  
る「鹿児島の教育を語る会」  
の実施②第五号会報の発行と  
会員への発送③昭和四十一年  
四十年卒業生への入会案内④  
平成十六年四月新入生への入  
会案内一等の報告をした。

議事は石神正明さんを議長  
に選出して進められた。十五  
年度の決算(収入総額千二百  
四十万五千八百五十九円/総  
支出百三十二万六千三百九

鹿児島大学当局において、「法  
人」という新しい大学の在り方  
を求めて、いろいろな改革を進  
めておられます。  
こういう諸般の事情の中で、  
私たちの同窓会も新しい運営を  
模索していく時代になったので  
はないかなと思います。  
幸いに大学  
当局のご好意  
とご支援を頂  
きながら、教  
育学部同窓会  
も年を重ねる  
ごとに同窓会としての基礎が固  
まってきております。



## よりよい同窓会の在り方を求めて

同窓会会長 松元 兼俊

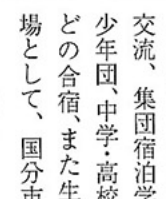
「地方の時代」と簡単に言いま  
すが、何をどうしていくのか、同  
窓会の在り方についても一度  
原点に立って検討してみること  
が必要なのではないでしょうか。  
ていくべきかを真剣に協議し続  
けて参りました。  
私たちはささやかではありま  
すが、学部の学生諸君との交流  
を図るために教育後継者育成事  
業として「教育を語る会」を実施  
し、今年で三年目を迎えました。  
内容につきましてはすでに(一

円)を承認。平成十六年度の  
事業案は、①前年度に引き続  
き「鹿児島の教育を語る会」  
の実施②会報第六号の発行  
③同窓会総会の開催準備作業  
の継続を審議し、予算総額  
千五百六十四万九千五百五十  
円を承認した。  
その他の協議では、同窓会  
員の貴重な人材活用のために  
「子育て」「学生のための就  
職支援」「児童・生徒をめぐ  
る問題解決のための教育相  
談」など、教育学部同窓会に  
ふさわしい活動を実施して県  
民にアピールすることの意義  
も話し合われた。  
役員改選では、副会長・木  
佐貫哲さん、理事・下蘭亮子  
さん、幹事・村田孝男さん、  
監事・川路郁夫さん、支部世  
話役・川上秀美さん、同・西  
雅雄さんが辞任、他は再任さ  
れた。最後に、木佐貫副会長  
の閉会の挨拶で終わった。



温水プールに  
おられます。

この夏は、  
温水プールに  
おられます。



この夏は、  
温水プールに  
おられます。

この夏は、  
温水プールに  
おられます。

## 交流センターに勤務して

いっきいき 国分  
交流センター所長

このような時期、設立されたこ  
の「交流センター」の存在価値をど  
う高め、日々の運営に取り組んで  
いくかが大きな課題であります。  
来館された高齢者や障害をも  
つ方々の笑顔、子ども達のキラキ  
ラした目を見て、微力ながら更なる  
努力をしていかなければとの  
思いをしているこのころです。

## 寄稿

子ども達が順番待ちをするほど  
来てくれました。

子ども達が順番待ちをするほど  
来てくれました。

## 島にて

木佐貫  
指宿市文化  
協会副会長

「夢は上京して画家に！」  
そんな私が、教職を生業の道と  
決意したのは、初任地・熊毛郡  
種子島西之表町立国上小学校で  
の、家庭訪問の日であった。  
島での家庭訪問では、児童の  
家のほかに、村長の家を表敬訪  
問する慣わしがある。そこでは  
酒宴が開かれ、校長・教頭・P  
T A会長が、立ち寄る先生達を  
待ち受けている。その日訪問し  
たF君宅が同時に村長宅だっ  
た。当然、新米の私は大いに飲  
まされた。「まだY君宅が」と  
言っても「毎年のこと、Y家  
人も判つちよい。今日はここで  
轟沈じゃ」と、また飲まされる。  
深夜、小用に縁側に出て驚い  
た。庭先のアコウの巨木の下に、  
漆黒の小屋に私を引き入れて  
言った。  
「どん家はお父もおらんで、  
他所家ごつ、卵も竹ん子も無か  
どん、芋はどしこでん有る」  
その半分腐った床芋を、私は  
嬉しく貰った。母屋には障子も  
襖も無く、田の字に区切られた  
奥に、妹も寝ずに待っていた。  
多分、私に出される茶菓子の残  
りが目当てだろう。  
「私は虫歯で、お菓子は」と  
断ると、その子はニコッと微笑  
み、床についた。  
「どん達の先生は、約束は絶  
対に守ると、この子が言うて  
きかんもんで」と、母親は幾  
度も頭を下げた。  
その夜、帰途、晴れ上がった  
星空を見上げながら私は誓っ  
た。「この純粋無垢な子等の画  
布に、美しい世界を描こう」  
次の年、島に電灯が点った。

## 寄稿

子ども達が順番待ちをするほど  
来てくれました。

子ども達が順番待ちをするほど  
来てくれました。

## 寄稿

子ども達が順番待ちをするほど  
来てくれました。

子ども達が順番待ちをするほど  
来てくれました。

# 教育を語る

## 鹿島の教育を語る会



同窓会では、「後継者育成に関する事業」の1つとして、平成14年度に引き続き「鹿児島の教育を語る会」の第2回を、平成15年11月28日(金)、教育学部103号教室で開催した。当日は同窓会役員をはじめ、学部の先生方、在学生が多数参加。16学科から代表1名が選出され、それぞれ5分間以内で、現実の学生生活や教育実習などの体験を通して、教育に対する思いや夢を語った。なお、今回は卒業生の代表2名が学生に語りかけた。

### 父の影響

国語専修三年 長谷部 勇太

私は二年半しか鹿児島の教育を知らない。自分が教育について興味を持ち、教育学部に入学した理由は、父が大きく影響をしている。父は教師や教育関係の仕事をしているわけではないが、子どもの教育に確固たる考え、思いを持っていて。私が教育実習に行き、まず第一に感じたことは、鹿児島

### 教育は性善説で

社会科三年 坂元 勇一

私はJRで通学している。鹿児島中央駅前の広場の階段には、中高生男女がたむろしている。駅ホームでも地べたに座り、電車が来ると、お年寄りを押しのけて我先に席を

### 小さな出会い

音楽専修四年 上高原 梨恵

私にとって音楽と教育(特に障害児教育)は大きな二本の柱となっている。それは十九年前、病院のガラス越しの小さな出会いだった。私に二人の弟ができた。その一人は光を失った未熟児網膜症である。この日を境に私の生活は一変した。両親は私にピアノを習わせることにした、これが私と音楽の出会いである。

### 地域のことは地域で

家政科専修四年 西田 佳奈子

私が教師を目指すようになったのは、小学六年の頃からでした。父の仕事の関係で離島の小学校に通うようになり、もつといろいろな学校へ行ってみたいと思うようになったことから。地域のことを地域で学ぶということ、そこで暮らしている子どもたちが、地域のよさを知り、また、地域に貢献すること、それが、地域社会教育専修三年

### 開かれた学校

日高 初美

懐かしい母校「小学校」へと、散歩がてらに緩やかな坂道を登った。歩いて十分程度の小学校に着いた私は愕然とした。校門に以前はなかったはずの無機質な鉄格子の門を感じさせる黒い「門」と「チェーン」が私を迎えた。実家はとても田舎であり、地域との交流もかなりの程度で行われていた土地だったために、「こんな田舎までに」と。

### 教える側の目線

技術科三年 藤森 智久

大学に入る前までは、私は溝口先生のような「担任の先生」というものに強い憧れがあり、こんな先生になりたいという反面、技術という教科に対しては単に自分が好きだという考えだけからでした。「技術」という教科をとっても軽視していたようです。しかし、大学生活の中で技術に対

### 先生との出会い

保健体育専修三年 福永 尚美

教育学部に入学した理由は、高校時代にすごい先生との出会い、その先生と同じ職場で働きたいと思ったからです。「卒業後は熊本に帰ってその先生と働くんぞ」という考えがありました。今回、学生として鹿児島の教育の現場で、指導教官・生徒との出会いによって先生方

### 質の高い健康度を

健康教育コース四年 豊饒 真子

私が将来養護教諭として教職に就いたとき大切にしたいこと、健康を心と身体の健康センターとして運営していきたいこと、ケガや気分が悪い児童生徒への看護対応、保健管理も充実させていきたいと考えています。学校全体の健康度をより質的に、何よりも児童生徒が日々学校生活の中において、心

### 感性を豊かに

美術学斗大学完二年 反 袁太郎

も身体も健康に生活していくよう指導、サポートしていただくと思います。保健学習や保健指導の時間を有効に使い、健康教育を充実させ、児童生徒の健康意識の向上、危険行動の抑止等を高めることが、学校全体の健康度をより質的に、高いものにするのではないかと

# 現実をふまえて

## 同窓会主催 ～第2回鹿

事だ。人間は初めからいいものを持っていない。鹿児島は教育の宝の山だ。自然が溢れている。

### 楽しさを教える

理科四年 久林 昌平

私が教師になりたいと思ったのは高校のときである。鹿児島の中学校の理科の授業は、教科書の内容を読んで、ただ教えるだけの授業が多かった。高校のとき化学の先生の影響を受けて、中学の理科の先生になろうと思った。その先生は、授業ではほとんど教科書を使わず、先生の経験から必要なところだけを教え、

### 鹿児島の教育を支える

心理学科大学院二年 中 蘭 良 彦

この六年間は、私の人生を決めた六年間でした。教育学部に入学したときは、同級生で教員を志望している人はほとんどいませんでした。私もその中の一人でした。学年が進むうちに、友人と飲み屋で話すこともだんだん教育に関

### 子どもの視点から

数学専修大学院三年 石川 昌 孝

私が目指す教師像は、  
①「子どもの視点から物事を考えることができる教師」であり「教師としての視点から物事を考えることのできる教師」  
②「日々研究する教師」  
③「数学の指導力のある教師」である。私の専攻は数学教育である。子どもを抜きにして研究を進めてはいけないと常に考え、勉強に励んでいる。

### 教育学専修三年 林 あきの

私は奄美大島の住用といふ、人口二千人足らずの小さな村で育った。村内に児童生徒数は少ないが、距離的な問題があった。私が在籍した頃の総人数は小中約七十人ほどで、入転校の多いときは七人、少ないときは四人ほど、小学校の中高時は複式学級であった。少人数学級のためか、中学校ともに授業時間が退屈

### 教師の影響絶大

英語専修四年 新 須 勇 一

今、私たちは教育学部について、教師になりたいと思ってる人がほとんどであるが、今一度、自分が本当に教師になりたいのか、本当に教師という職業に向いているのか自分を見つめなおしてほしいと思う。教師になってからは遅いのだ。挨拶ができない、きちんとした言葉遣いがないのでは、悪い生徒しか育たない。共働きの多い今日では、

### できることを考えて

障害児教育学科四年 小 脇 真 八 子

教育実習は多くを学ぶ機会となった。中学校の実習では先生の言葉から次のことを学んだ。「子どもは自分と違う存在と思わない」ということ、そして「自分自身が生き生き楽しむこと」である。そう考えることで、私は子どもと関わりを続けていくことができると感じた。私は自分のほかの

## 同窓会役員

顧問	島坂中松	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊	幹 事	孝安昭郁	男和彦夫輝
会長	○木佐貫	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊	幹 事	孝安昭郁	孝安昭郁
副会長	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊	監 事	○村増假屋	芳秀吉司
理事	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊	支部世話役	○川辰松	林弘幸
	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊		○川辰松	崎上野山留
	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊		○川辰松	崎上野山留
	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊		○川辰松	崎上野山留
	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊		○川辰松	崎上野山留
	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊		○川辰松	崎上野山留
	○池之上	田尾山元	俊 右兼	秀隆尚俊		○川辰松	崎上野山留

(○印は16年度退任者)

### 日本人の英語教師へ

国際理解教育専修四年 久保田 実 穂

教育学部に入ったものの、実際自分が教師として生徒に英語を教えられるのだから、英語は英語のネイティブ・スピーカーが教えた方がいいのではないかと気が持たないポイントをちゃんと知っている。そして分かりやすい説明を加えてくれる。私も日本人の英語教師だからと、はっとさせられました。

# 卒業生から在學生へ

## 大きな花マル

池之迫静男(昭和30年卒)

= 社会科



私は長い教壇生活を振り返って、忘れたい一人の生徒について話すことにします。その中学三年のA君は、仲良し学級の生徒でした。四月のある日、A君が一冊のノートを持って校長室に入ってきました。そのノートは漢字百字練習帳でした。それを見て、私はA君をほめながら、赤鉛筆で大きな花マルをあげました。彼は「校長先生、漢字百字練習帳を何冊書いて表彰してくれますか」と言いますので、「よし、卒業までに五十冊書いたら、みんなの前で表彰してあげましょう」と約束をしました。大きな花マルをもらったA君は、喜んで各学年の職員室を回り先生方に見せて、ほめてもらっていました。

この日以来、A君の努力が始まりました。A君の努力があまりに大きかったので、私も毎日一冊ずつ見てあげました。彼の努力が認められて、彼の母さんが「A君は素晴らしい子です。毎日漢字百字練習帳を漢字で書いていますよ」と教えてくれました。やがて春三月、卒業の日が近づきました。卒業式の前日に四十五冊書いていました。A君の努力を認めて表彰することをしました。

表彰の前日、校長室で表彰式授与のレハーサルをしていました。A君のお母さんが入ってこられて、「この子にとっては一生一代の栄誉なことですよ」と感激して、喜んでおられました。とうとうその日がやってきました。体育館に全校千名名の生徒たちが並んでいる中で、たった一人の表彰式です。演壇には四十五冊のノートが赤いリボンでしっかりと結ばれていました。A君の名前が呼ばれると、緊張した彼が、トボトボとステージに上がってきました。私は彼の前に立って、大きな声で「表彰状、A君、君は漢字百字練習帳四十五冊をめざし、毎日努力して目標を達成しました。君の一生懸命の態度はまことにすばらしい。書くことは考えることです。ここに君の努力を讃え表彰します」と表彰状を授与しました。

静男も返っていた体育館に拍手がわき起こりました。この時、体育館の玄関のガラス窓越しに、わが子の晴れ姿に涙が止まらなかつたお母さんがおられたことを後で知りました。一冊の漢字練習帳に、たった一つの花マルをもらい、ほめられ、励まされたことに彼の心が大きく動いたのだと思います。私は生徒たちを見るたびに、あの元禄時代の俳人・松尾芭蕉の「よく見ればなすな花咲く垣根かな」の句を思い出していました。垣根の隅の小さな花にも、芭蕉は愛の目をとめたのです。どんな生徒にもそれぞれ花があります。学校の先生は子どもの花を見つけて美しく咲かせてやることです。

## 生徒の目線に立った学習指導

大迫 征人(昭和37年卒)

= 英語科



私は、昭和三十七年に教育学部英語科を卒業し、以来三十八年間、県内公立中学校等に勤務しました。現在、鹿児島市内の二つの中学校で英語の教科指導員として初任者研修のお手伝いをし、初任者としてごさしていたいています。

さて、本日は「生徒の目線に立った学習指導」ということを中心に、かねがね初心者とも語っていないこと等を少しばかりお話ししたいと思います。

昔、私が一英語教師として中学校の教壇に立っていた頃のことです。私と同じ学年に、大学を出たばかりの数学の先生がいました。驚いたことに、その先生が教えている学級は、中間・期末テストなどの定期テストのたびに、数学の平均点が他のどの学級よりも高いのです。どうしてだろう？ まだかけ出しの彼がそんなうまい授業をしているわけではないし、何か特別な仕掛けでもあるのだろうか？と、学年の他の先生方がみな彼のことに注目し始めました。そして私は、彼が「生徒の目線まで下りた指導」に努めていることに気付いたので、誰が見ても下手な授業をなすりふりかまわず、一方的に大声でしゃべって進んでいる彼で、ひとつだけ感心することがありました。それは、いつも「小テスト」を実施し、間違った生徒を解けなかった生徒に対して「僕のところにもいつでもおいでよ」と言って、休み時間などに職員室や廊下などで個別に分かるまで何回も教えていたものです。また、彼のところには生徒がよく質問に来ていたようです。生徒の声によく耳を傾けていたのだ、そんな彼のところに生徒たちも質問に行きやすかったのだでしょう。ある時、彼が私に言ったことを今でも覚えています。「実を言うと、私も中学生の頃は数学が大の苦手でしたが、ささやかではありましたが、着実に歩みをつけてきています。ただ、一万五千人を超える同窓生の皆様に確実に同窓会の存在を認識していただいておりません。▼各学年や教科ごとの同窓会の充実しているところがあるようです。代表者の方は事務局にご連絡ください。会報等をお届けします。教育学部同窓会の特質は、鹿児島県の子どものちを育てるための人材がふれていることです。学校教育を大きく変える時代の要請に応えられる同窓会でありたいものです。▼同窓会への要望等をお寄せください。会報が必ず必要な方は、教育学部同窓会事務局(☎099-285-7711)まで。

「新米のその一粒の光かな」

編集 後記

## (平成15年度) 同窓会決算

### 1. 収入の部 (単位:円)

事項(区分)	予算額	決算額	増減額	備考
前年繰越会費	9,715,831	9,715,831	0	新入生 2,340,000 卒業生 0 既卒者 350,000 計 2,690,000
預金利息		28	28	
計	14,245,831	12,405,859	△1,839,972	

### 2. 支出の部 (単位:円)

事項(区分)	予算額	決算額	増減額	備考
事務経費	350,000	262,041	87,959	貸金、通信、文具、郵送料他
会議費	150,000	122,698	△27,302	代表者会議、役員会、総会等
事業費	400,000	431,050	△31,050	会報作成費、発送費、鹿児島県の教育を語る会
総会準備基金	1,500,000	0	1,500,000	総会開催準備積金
後援会出資金返還	500,000	500,000	0	同窓会設立時の教育学部後援会からの出資金の返還(15、16年度の15年度分)
会費返却	0	10,520	△10,520	二重払込者への会費返却(送料込み)
予備費	11,345,831	0	11,345,831	
計	14,245,831	1,326,309	12,920,522	

収入決算額12,405,859-支出決算額1,326,309  
=11,079,550円(16年度へ繰越)

## (平成16年度) 同窓会予算

◎平成16年度事業計画  
会報第6号の発行  
同窓会総会の開催準備作業の継続  
後継者育成事業の継続『鹿児島の教育について語る』(平成16.11.24(水)4時05分～  
於 教育学部)

### 1. 収入の部 (単位:円)

事項(区分)	予算額	備考
前年繰越会費	11,079,550	16年度新入生 296名 457×10,000=4,570,000円
計	15,649,550	15年度卒業生 61名 既卒者 100名 計 457名

### 2. 支出の部 (単位:円)

事項(区分)	予算額	備考
事務経費	350,000	貸金200千円、印刷費、通信費、消耗品費、備品費等150千円
会議費	150,000	役員代表者会、役員総会経費
事業費	400,000	会報作成150千円、発送費100千円、後継者育成事業150千円
総会準備基金	2,000,000	総会開催準備積金(平成13、14、15、16年度分)
後援会出資金返還	500,000	同窓会設立時の教育学部後援会からの出資金の返還(100万円を2年に分けて返還、2年目)
予備費	12,249,550	
計	15,649,550	

参考 平成16年度6月21日現在  
会費納入状況 16年度分として289万  
(既卒者53万・新入生236万)  
通帳残高 13,865,372円